

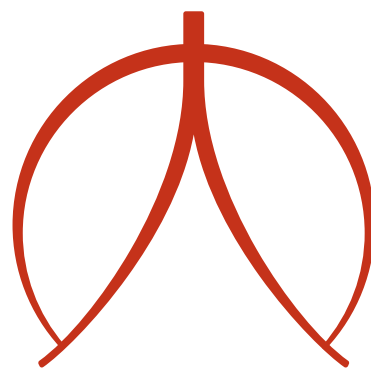
# 大谷大学広報

編集 大谷大学広報編集委員会

## No.177

2008年11月5日

# 2008 秋



大学生活でこれは必要という  
グッズを3つ教えてください

### 学問のしおり

生成変化  
田辺 繁治

### 国際交流トピックス

### 2008大谷大学紫明祭

### 谷大エリア散策

立命薬品

### SQUARE

カワイイとカワイソウを越えて  
森崎 礼子

## 冬扇

私が小学生のとき、父が甲子園球場の阪神・巨人戦に連れて行ってくれたことがあった。それは阪神・江夏豊、巨人・堀内恒夫両投手の投げ合いで終盤まで0対0が続いた試合であった。

試合中、私は退屈していた。当時の私が見慣れていたのは高校野球の地区予選であったから、もっと派手に点を取り合ったり、急所でエラーが出たりする波乱に富んだ試合展開が好きだった。まとも

な当たりが飛ばない試合では、父には悪いと思いながらも、おもしろいと思わなかったのである。

だが、今にして判る。あれは、球史に輝く両エースがプロ野球の強打者たち（長嶋も王も現役だった）を完全に封じ込めた、白熱の投手戦であったのだ。当時の私にはそれが理解できず、ちっとも点が入らなくてつまらないな、などと思っていた。かえすがえすも残念なことである。

何事であれ、本当に価値のあるものを素晴らしいと感じるためには、自分がそれだけの感性と理解力を身につけていなければならないのだ。父は大切なことを学ぶ機会を与えてくれたのだと思っている。

(浅見直一郎)

# 大学生生活でこれは必要という グッズを3つ教えてください

今回は、大学生生活に必要な「グッズ」を「3つ」紹介していただきました。他の人が大切にしている「グッズ」を知ることができるだけでもワクワクするのに、それがなんと「3つ」も公開されるなんて、なんとも太っ腹な企画ですねえ。それにしても、よくもまあモノからヒトに至るまでさまざまな「グッズ」が集まったものです。あ、そういえば、三種の神器(古い?)、三人寄れば文殊の知恵(これも古い?)などと言われるように、どうやら、「3」という数字にも不可思議な魅力があるようです。ひょっとすると、今回ご紹介する「3つ」の「グッズ」もあなたをトリコにするかも？

## 幼児教育保育科の私に かせない物!!

伊藤 星奈



- ①爪切り
- ②オリジナルノート
- ③手帳

幼教には他の学科にはないピアノや図工などの科目があるので、爪切りは、いつでも対応できるように持ち歩いている。

また、実習や卒業研究・就職活動などこれから目白押しなので、ちょっとしたことやアイデアをメモするオリジナルノートや予定が書かれた手帳は絶対手放せない。



(いとう せいな  
幼児教育保育科 第2学年)

## 私の学生生活に かせないグッズ

河上 幸四郎



- ①携帯電話
- ②アクセサリ多数
- ③扇子

携帯電話は諸々の連絡手段。今年度はひとつのサークルを預かる立場なので特に手放せない。

アクセサリは、出不精の自分が「外出」を意識できる必需品。

扇子は個人的な嗜み。総合コンセプトは和洋折衷ダンディズム。



(かわかみ こうしろう)  
人文情報学科 第2学年)



## この歳の私が、大学生生活を送り 続けるには ー入浴剤ー

滝口 直子

- ①ルルドの華 ②ヒマラヤの塩 ③森の生力

なさけないことながら、学生の若さに対抗して大学生生活を送り続けるには、これが必要! ①奇跡の泉、「ルルドの華」でアンチエイジング、起こるわけがないから奇跡だが。②「ヒマラヤの塩」、太古の地球に想いをはせながら。③なんととっても檜の香り、「森の生力」森林浴で頭をリフレッシュ。



(たきぐち なおこ)  
社会学・文化人類学 教授)

## 通勤時の必需品

藤谷 徳孝



- ①CASIO WAVE CEPTOR  
(電波時計)
- ②ミステリーの文庫本
- ③ICOCAカード

発車15秒前にホームに着くにはキロ4'20"で走れば…。電波時計をみて計算する。鞆にいつも文庫本。通勤電車で朝から桐野夏生はちょっとつらい。定期が切れてる！というマヌケな時にも役立つICOCAカード。



(ふじたに のりたか)  
(入学センター 職員)

## 私にとって特別な三つのグッズ

金 要 燮



- ①手帳 ②電子辞書 ③カメラ

①いつでもすぐメモができる手帳  
一生懸命覚えてもすぐ忘れてしまうから



②電子辞書  
手帳とは離れないものとして留学生には絶対はずせないもの  
手帳とセット品目として鞆の中に位置している



③カメラ  
自分の国を離れ、新しい国への旅。思い出として残せるものは写真しかない。たくさんの思い出を心に刻んで母国に帰りたい

(キム・ヨソブ)  
(留学研究生・交換留学生)

## 私の大切な・・・

藤 誓子



- ①Apte (梵英辞典)
- ②小谷先生
- ③トウシューズ

「Apte」は、いつも私の鞆の中に入れており、これがないと勉強は始まらない。



「小谷先生」は、私に色々なアドバイスを与え、背中を押してくださる存在である。



「トウシューズ」は、大好きなバレエを踊る時に履くもので、踊っている時は嫌なことを忘れることができる。

(ふじ せいこ)  
(修士課程 仏教学専攻 第1学年)

## C O N T E N T S

- p. 2…大学生活でこれは必要というグッズを3つ教えてください
- p. 6…CAMPUS☆TOPICS
- p.17…学問のしおり
- p.18…国際交流トピックス
- p.23…2008年度大谷大学紫明祭
- p.25…Keiji☆Ban
- p.29…課外活動イベント情報
- p.30…学生相談室から
- p.31…谷大エリア散策
- p.32…研究室だより
- p.33…学会だより
- p.34…出版物紹介
- p.35…大谷中学校・高等学校九州大谷短期大学からのお知らせ
- p.36…SQUARE

## 表紙のことば

いらっしゃいませー！

今日はみんなが丸となって谷大を沸かします。

学祭はみんなでだからこそ成功する。一人でも欠けてしまったらダメなんです。学祭にはたくさんの人のいろんな思いがたまっているのです。

普段の活動の成果をドーンと披露したり、普段にはない活動に一致団結したり。

いろんなドラマを背景にみんなに素敵な思い出を。

自灯寮 稲岡 智子

## 冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたつたぬことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2008年11月5日発行

発行 大谷大学企画課

編集 大谷大学広報編集委員会

〒603-8143

京都市北区小山上総町 大谷大学企画課内

電話 (075) 411-8115

FAX (075) 411-8149

## 一心同体

塩貝 友斗



- ①リップクリーム
- ②吸収性のよいダンロップのタオル
- ③友達や思い出、また思い出を形にしたもの

唇の乾燥、汗をかき、体がベタベタのままでは楽しい学校生活も手放して楽しめない。

- ①乾燥する時期に忘れるとショックである。



- ②冬は持ち歩かないが、夏は必ず必要である。

- ③学校生活ではたくさんの人に会い、楽しいかけがえない時間を過ごさせてもらっている。



(しおがい ゆうと)  
社会学科 第4学年)



## こだわりはあまりないのですが

安藤 義浩



- ①ボールペン ②紙袋
- ③ビタミン剤

- ①0.3mm以下の極細ボールペン各色  
教科書などへの書き込みにとっても便利です。



- ②紙袋

尾州寮の寮長をしています。寮に泊りにいくとき、着替えをいれるのに重宝しています。



- ③ビタミン剤

疲労回復のために飲んでます。効いているのかはよく分かりません。どう組み合わせると効果があるのか、これを考え始めると止まらなくなり、かえって疲れます(笑)

(あんどう よしひろ)  
真宗学 任期制助教



## 自分の留学生活によく合うもの

ジェシカ・メイン



- ①乗り物
- ②通信機械
- ③見物



愛乗り物(電車やバスに乗らなくて大学までいけるママチャリ)・愛通信機械(海外にいる間研究も家族との通信もできるノート)・愛見物(「今日はいい日になるかな」と考えさせてくださる鳶)である。

(ジェシカ・メイン)  
留学研究生



## 本当はなくても平気…かな?

番場 寛



- ①メガネ ②恐竜
- ③コピーカード

- ①メガネ

「どういうときに眼鏡をかけるの?」と聞かれたある人は「自分の顔に飽きたとき」と答えたそうだが、自分の性格に飽きたらどうすればいいのだろうか?

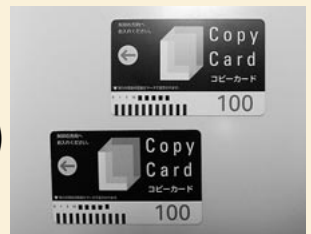


- ②恐竜

えさや水をあげなくても黙ってそばにいてくれる。

- ③コピーカード

使い切らないうちに何枚なくしたこともやら。



## オフのリラクゼーションと オンのヘルスチェック

吉岡 由起子



- ①IL DIVOのCD
- ②入浴剤
- ③体脂肪計



リラクゼーションとして

IL DIVOは聴いていて心地よい  
(もちろん、イケメンでもある)。

入浴剤を使ってゆっくりバスタイム。  
ストレス解消、気分爽快に。



ヘルスチェックとして  
体脂肪計(体重)は  
毎朝保健室で測定。確  
認したくない日もとり  
あえず乗る。

(よしおか ゆきこ  
学生支援課・保健室 職員)

## これがないと生きて いけない!

高井 聖也



- ①友達 ②先生 ③サッカー



### ①友達

一緒に授業受けたり、アホなこ  
としたり、気軽に相談できる。

### ②先生

気軽に生徒の質問・要望に答えてくださったり、授業中  
はムードメーカーとして盛り上げてくださる。

### ③サッカー



サッカーから輪が広まった友達が  
いる。自分の人生・生活においても  
切っても切り離せない。

(たかい せいや  
国際文化学科 第2学年)



## 大切 ～私のすきなもの～

東井 千佳



- ①カメラ ②写真 ③メモ帳



カメラ・写真・メモ帳は  
私にとって必要である。

カメラは一つのことを  
様々な角度でみることで  
き、自分のすきなものを表現できる。写真は思い出を簡単  
に蘇らせてくれる。メモ帳は良いと思った言葉やものを忘  
れないように書きとめておくことができるからである。



(とうい ちか  
社会学科 第3学年)



## 夢があるから

早川 一人



- ①ネタ帳 ②万年筆 ③名刺



自分の夢は小説家  
になることである。  
そのために、思い  
ついたことをすぐに  
書き留められる「ネ  
タ帳」。

それを書くための「万年筆」。  
そして、それを知ってもらた  
ための「名刺」は自分にとってな  
くはならないものである。

(はやかわ かずひと  
社会学科 第3学年)



## 大学生生活をひとしれず 幸せに過ごす方法

山内 清郎



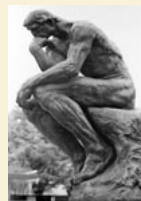
- ①おかし ②愛妻弁当 ③想像力



慌ただしくて昼食を食  
いぱぐれた時のエネル

ギーのおかし、とはいっても、できれば食べたい愛情のこも  
った愛妻弁当(写真を見てお弁当じゃないと指摘したあなたへ)  
と強く思い込んでひとり幸せになれる想像力(妄想と現実?)

(やまうち せいろ  
教育人間学・臨床教育学 講師)



## 仲野良一先生を偲んで



仲野良一先生は、2008年9月27日(土)、95歳でご逝去されました。先生の教えを受けた者として、誠に寂しい限りであります。謹んで哀悼の意を表し、お偲びいたします。

先生は、1958年4月に大谷大学文学部非常勤講師になられ、11年間にわたり、近代詩を講義されました。私は1963年4月に大谷大学文学部に入学しましたが、先生のご子息仲野良典君とたまたま同級生で、また男声合唱団でも親しくさせていただきました。そういうご縁もあって、翌1964年に、近代詩の講義を聴講しました。先生は、近代詩について熱く語られ、興味深く学んだ記憶があります。

1969年4月には大谷大学助教授に就任され、主として短期大学部国文科で女子学生に対し、熱心に古典・近現代文学を指導くださいました。また教職課程委員も兼ねられ、卒業生が中学・国語教員に採用されるよう尽力いただき、そのお陰で近畿周辺の中学校教員になった卒業生も少なくありません。

私は1972年4月に大谷大学文学部助手に採用していただき、先生から学生の指導法を丁寧に伝授いただきました。

先生は、1978年3月に退職されましたが、短期大学部教員として9年間、非常勤講師を含めると20年間、ご指導くださいました。ご退職されて後も1995年3月まで、17年間非常勤講師を続けられました。合計、37年間にわたりご指導たまわり、感謝いたします。

仲野先生は、近代・現代詩がご専門ですが、和歌にも造詣が

深く、『大谷大学国文学会会報』、『大谷学報』、『文藝論叢』などに多くの論文を掲載しておられます。

また先生は、仏教讃歌の作詞家として、有名です。「みほとけは」・「光はみちて」・「み名にこそ」など、東本願寺出版部刊『讃歌』に先生作詞の歌が収録され、多くの人たちに歌い継がれています。先生は、学生のコンパに必ず参加され、余興に、お得意の「踊り子」をよく披露してくださいました。「さよならもいえず」に始まるあの格調高い歌に参加者一同、心温まる思いがしました。今も、ロマンスで詩や歌をこよなく愛された先生を思いおこします。私も定年を迎えますが、改めて先生の学恩に感謝いたします。仲野先生、長い期間、本当にありがとうございました。

(大谷大学文学部国文学コース教授)  
石橋 義秀

## 人 事

### 退 職

#### 依願退職

[教育職員]

加藤 基樹 (任期制助教)

2008年8月31日付

福田 恵 (任期制助教)

2008年9月30日付

[事務系嘱託]

大伴 博子 (教育研究支援部)

2008年7月31日付

## 本学学生がWBTFインターナショナルカップに出場

8月5日(火)・6日(水)、本学の柏本安里沙さん(社会学科第3学年)が『第4回WBTFインターナショナルカップ』というバトントワリングの世界大会に出場しました。この大会は、世界バトントワリング連合(以下WBTF)が主催するもので、ソロトワールなど5種目の競技大会を2005年より新設し、加盟国及び未加盟国への競技バトンの普及をはかることを目的としています。今回の開催場所はアイルランドで、WBTF加盟の22カ国が参加しました。

柏本さんは中学1年生から学校のクラブ活動でバトンを始めました。現在は、国内外でバトンの活躍をし、世界的に著名な稲垣正司氏が監督を勤める立命館大学の立命館大学バトントワリング部に所属し、今回第4回WBTFインターナショナルカップ日本代表選手選考会で選出され、見事大会への切符を手に入れました。

今回の大会の出場について、柏本さんは「今回、初めて国際大会に出場し、本番前の自分の持って

行きかたが難しく、緊張ではなく「遂にこの時が来た」という気持ちや、前の団体の歓声に対する動揺などが入り交じって無意味に感極まって出番前にも関わらず涙が込み上げていました。がむしゃらに今までやってきたものをぶつけたので、5分間の本番はあっという間に過ぎました。しかし、この5分間には歓喜だったり悲劇だったり様々なドラマが詰まっています。各チームそれぞれがこの日のために努力してきたことが背景になり、演技に色がつきます。その選手たちの思いが観客に伝わった時、感動に繋がります。私たちの思いも伝わったのか、結果は3位銅メダルをいただくことができました。メダルを首にかけてくださった先生が涙ぐんで「あなたたち



本人：前列、左から2人め

の演技はすばらしかったわ」と言っていたことがとても印象に残っています。選考会を経て日本代表として現地へ行ったものの、全然実感はなく、日本国旗を振りながら入場行進をした時に、初めて日本代表という自覚をしました。アイルランドで他の団体やソロの選手と練習をするうちに、どれだけ日本で自分に甘い練習をしてきたか痛感しました。この経験ができたのも監督の稲垣さん、コーチ、補欠のメンバー、家族、みんなの支え、協力があったからこそ得られたものだと思います。感謝し、そしてこれを活かし次なるステップアップに繋げていきたいです」と話してくれました。

(企画課)



演技の様子

## 本学学生が中国語検定にチャレンジ

本学の的場淳子さん(修士課程国際文化専攻 第2学年)が2006年12月に中国語能力認定試験(以下HSK)、本年6月に中国語検定試験(以下、中検)、本年7月に中国語コミュニケーション能力検定(以下TECC)、の試験を受けられました。初めは、自分の実力を知ることが目的としてHSKを受験されましたが、試験の結果を就職活動に有効に活かすことを目的とし、さらに2つの試験を受けられました。

的場さんは、HSK初中等7級、中検2級に合格し、TECCのスコアは616点でした。いずれの試験

も、中国語能力を測る指標として使われているもので、リスニングや文法、読解力などが試されます。いずれの試験も好成绩で、中でも中検2級合格は本学の学生として初めての快挙です。

試験対策として、的場さんは、GLOBAL SQUAREを積極的に利用し、試験前には毎日足を運んでおられました。GLOBAL SQUAREに設置してある過去問題集を解き、テレビやリスニングのCDを使いリスニングの学習をされました。

現在、中検準1級の勉強に取り組んでおられる的場さんは「検定の勉強をすることで新しく単語を

覚えることもでき、語学力の維持にも繋がると考え、次は準1級を受けようと思っています。GLOBAL SQUAREでは映画を見たり、CDを聞いたり勉強の息抜きも勉強になるので、語学学習にはとても効果的だと思います」と話してくれました。

(企画課)



GLOBAL SQUAREを利用する的場さん

## 留学生文化交流会を開催

2008年度第1回留学生文化交流会を7月5日(土)に開催し、外国人留学生12名を含む、34名の学生が参加しました。

午前中、京都絞り工芸館(京都市中京区)にて京鹿の子絞りを体験しました。「傘巻絞り」「疋田平縫いメ絞り」というふたつの方法にて、正絹生地を木綿の糸で縛って染色を防ぎ、花やうさぎの模様を付けました。その作業に多少苦勞する人がいましたが、早く終わった留学生が手伝うなど、新たな体験を通じて参加者同士親睦を深めました。染め上がった生地から

糸をほどくと、それぞれ素晴らしいディナーチーフが完成しました。また、館長・吉岡健治さんより、1300年に及ぶ絞り染めの歴史や、職人として自立するには約30年かかることをお話しいただき、絞り染めの奥深さを窺い知ることができました。

午後はアマタ本店(京都市左京区)にて昼食後、廬山寺(京都市上京区)を参拝しました。境内では、キキョウが見ごろで紫色のきれいな花を咲かせていました。ここで、留学生指導教員の木場明志教授より、歴史学者・角田文衛氏

が、廬山寺は『源氏物語』作者とされる紫式部の邸宅址である、と検証された説をご紹介いただきました。今後も留学生文化交流会の開催を予定しています。ぜひご参加ください。

(学生支援課)



京鹿の子絞りを体験している様子

## 幼児教育保育研修会を実施

幼児教育保育科では、第1・2学年の全員を対象に、7月5日(土)に研修会を実施しました。研修会は毎年実施していますが、今回のテーマは、パネルシアター。午前中は、パネルシアターの考案者とされる古宇田亮順先生による実演と、藤井宣昭氏のパネルシアター

の解説。午後は、第1・2学年混合編成のグループに分かれての制作、発表を実施しました。今回の研修は、保育所や幼稚園での実習や、現場で直接役立つことと思います。

(幼児教育保育科)



古宇田亮順氏

## 宗教学会「大拙忌記念」公開講演会を開催

去る7月9日(水)、大谷大学宗教学会主催の第27回「大拙忌記念」公開講演会が尋源講堂において開催されました。この講演会は1966(昭和41)年7月12日に95歳で亡くなられた世界的宗教学者で本学の名誉教授であった鈴木大拙先生のすぐれた業績を顕彰する目的で始まったものです。今年、この3月に大谷大学を退任された前宗教学会会長の長谷正當先生から「空のイメージと無限の因果—浄土の莊嚴をめぐって—」と題されたご講演をいただくことができました。

長谷先生は長らく京都大学文学

部で宗教学講座を担当されておられましたが、定年を待たず本学哲学科宗教学分野にご着任いただきました。以来8年間にわたり学部・大学院で精力的に講義・演習を担当していただきました。京都大学時代は主にフランス現代哲学から宗教を考察しておられましたが、本学に移ってこられてからは清澤満之・曾我量深の教学と西田・西谷哲学に積極的に言及されつつ、新たな親鸞理解を展開されました。その成果は、『欲望の哲学—浄土教世界の思索』『心に映る無限—空のイメージ化』としても刊行されていますが、今回の

ご講演はその思索をさらに深めた長谷先生の「大谷時代」の集大成と言えるご講演でした。

この講演記録は、来年春に刊行予定の『宗教学会報』に掲載される予定です。

(宗教学会)



長谷正當氏



## 石間奨学金が贈られる

去る7月18日(金)に、「石間奨学金奨学生証書授与式」が尋源講堂にて執り行われ、奨学生3名に証書と記念品が贈られました。

昨年からはじめたこの奨学金は、石間裕氏からの寄付金を財源としており、大谷大学・大谷大学短期大学部での学びに強い意欲を持ちながら、学費の支弁が困難な最終学年の学生に対して給付されるものです。証書授与式終了後には、

懇談会が行われ和やかな雰囲気の中意見交換が交わされました。創設者である石間氏は奨学生に向けて、卒業後の進路等にも触れられ「グローバル化社会においてコミュニケーション能力を高め、アジアにおいてリーダーシップが発揮できる人物になってほしい」と温かい励ましと、「ひとりの人で良いから、困っている人を助けてください」と卒業に向けての饒はなむけの

言葉をかけられました。

(学生支援課)



石間裕氏より記念品の贈呈

## 仰木の里子どもフェスタへの協力

7月21日(月・祝)、大津市仰木の里市民センターにて、第10回「仰木の里子どもフェスタ」が開催されました。このイベントは、仰木の里学区の子どもたちの「生きる力」を育む環境を充実させるため、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちの教育支援を行うものです。

本学は「仰木の里子どもフェスタ」の体験活動に協力しており、今年は児童文化研究会の、ばんび役の大森好恵さん(社会学科第4

学年)、まめ役の西川真未さん(社会学科第4学年)、モンモン役の北後匡規さん(哲学科第4学年)がゲームと人形劇を行いました。約40名の子どもたちと保護者は、お兄さんお姉さんの演じる愉快なステージに大喜びでした。

北後さんは、「今回は夏祭りでの公演ということもあって、公演の合間に屋台のお手伝いで子供たちと関わるなど、いつもと違った経験ができて、とても楽しいイベ

ントとなりました。」と話してくれました。

(教育研究支援課)



子どもたちを前にして自己紹介

## 「暁天講座」開講

去る7月23日(水)～25日(金)に、2008年度「暁天講座」が開講されました。各日、参加者は約280名にのぼり、近隣住民をはじめ多くの市民の方々にもご参加いただきました。

「暁天講座」は夏の「安居」期間中の爽やかな早朝に、「安居」講師を迎えて行っているものです。講座期間中は講演終了後、学内食堂にて朝粥の接待があります。参

加者の中には毎年楽しみにされている方もおられます。

なお、各講師・講題は以下の通りでした。

7月23日

小谷信千代(本学教授)

「もんくんじゅう聞熏習について」

7月24日

木場明志(本学教授)

「浄土真宗の『真』の

意味をたずねて」

7月25日

鍵主良敬(本学名誉教授)

「法蔵菩薩ののり」

(総務課)



第3日目講師 鍵主良敬氏

## アメリカ民謡研究部が「鴨川納涼祭」に参加

8月10日(日)、鴨川の三条大橋から四条大橋西岸河川敷で開催されました「第39回鴨川納涼祭」に本学からアメリカ民謡研究部が参加し、イベントコーナーの納涼ステージで演奏を行いました。

「鴨川納涼祭」は鴨川を美しくする会の主催のもと、文化、作法、技術等を体験し青少年の自主性や教養性の向上と河川美化、環境保全等の大切さの理解を深めてもらうことを目的に開催されています。ステージは、友禅流しを見下ろす位置に特設され多くの人が集まりました。アメリカ民謡研究部が歌う英語の歌詞に、外国人も足を止め、演奏を聴く姿が見えました。

今回出演されたのは、5名のメ

ンバーで構成される「ロマトレ」と4名のメンバーで構成される「パパラッチ」の2組です。「ロマトレ」は、全員が甚平姿で演奏を行いました。

今回の出演について「パパラッチ」のメンバー甲斐智子さん(文学科第2学年)は「鴨川納涼祭に出させてもらって、とても楽しかったです。納涼祭には若い人からお年寄りまで年齢に関係なく参加

していました。鴨川を綺麗にしたいと思う人たちがたくさんいました。そんな地域の人たちのために私たちはライブで盛り上げるくらいしかできなかったのですが、それと同時に環境を大切にするために色々な人が工夫して企画していることがとても勉強になりました。また、納涼祭に呼んでもらえたら、光栄です」と話してくれました。

(企画課)



「ロマトレ」の演奏



「パパラッチ」の演奏

## 高校生「インターンシップ」を受け入れ

8月4日(月)・5日(火)、私立京都両洋高等学校の生徒3名が、インターンシップのために本学を訪れ、図書・博物館課、企画・入試部での仕事を体験されました。2年生の西山貴洋さんと、1年生の坂井翔さんには図書館で資料の受入と目録データの作成、配架、図書館の開館準備、カウンター業務、参考調査(レファレンス)などの体験をしていただきました。1年生の西村怜香さんには企画・入試部で、オープンキャンパス運営業務、アンケートの入力、小論文講座運営業務の仕事をしていただきました。

今回の体験に参加した3名は「学校や家で使用することが少ないコンピュータでの入力作業が大変でした。図書館の開館準備やオープンキャンパスの業務では、準備や後片付けなど迎える側の立場でないとわからないことを体験し、表には出ない大変な作業があるこ

とに気づきました。業務時間と休憩時間のめりはりをつけて仕事すること、仕事のやりがいなどに気づいた体験になりました。この体験を活かしてこれからもがんばっていきたいと思います」と感想を語っていただきました。

(企画課)



オープンキャンパスの受付の様子  
左:西村さん



図書館の開館準備  
左:西山さん、右:坂井さん

## 中学生「生き方探究・チャレンジ体験」を受け入れ

9月1日(月)~5日(金)の期間、京都市立衣笠中学校の2年生の千原亮太さんと馬場敦志さんの2名が「生き方探究・チャレンジ体験」として本学において職業体験を行いました。この取り組みは、生徒一

人ひとりの興味や関心に基づく勤労体験、職場体験、ボランティア体験などの社会体験を通じて、すべての生徒の「生きる力」を育成するとともに、地域社会の人々との人間関係づくりや思いやりの心、

共に生きる社会の一員としての自覚など、中学生が自己のあり方を見つめ、自らの生き方を考え、見つけられるよう支援していくことを目的としています。

二人には、企画・入試部での仕

事を体験していただきました。企画課では、広報関係業務の仕事を体験し、広報記事の作成や、他大学の広報誌の整理等に取り組んでいただきました。なお、31頁の「谷大エリア散策」の写真は二人が撮影されたものです。入学センターでは、学生募集活動の仕事を体験し、オープンキャンパス用資料、ポスターの作成、入試用教室

点検作業等を行いました。

体験を終えた二人は「最初は事務の仕事は地味なものだと思っていたけれど、仕事を終えた時に達成感を感じました。どんなことでも、一番速く正確にできる方法を見つけて実行することが重要だと分かりました」と話してくれました。

(企画課)



完成したポスターを挟んで  
左：千原さん、右：馬場さん

## 大学コンソーシアム京都からインターンシップ生の受け入れ

9月8日(月)～9月24日(水)、大学コンソーシアム京都からインターンシップ生の受け入れを行いました。今年度は立命館大学大学院から古岡俊平さん(公務研究科専攻第2学年)を実習生として受け入れました。古岡さんは「地域と大学の連携」を研究のテーマとしておられ、大学の視点に立って地域を見る目を養うことを目的に高等教育機関での実習を希望されました。

大学広報全般の実習内容ということで、大学紹介ツールの作成、取材の立会いなど、企画課での業務を体験していただきました。大学紹介ツールの作成では、Power

Pointを使用し、中学生の修学旅行生を対象とした大学紹介資料の作成に取り組んでいただきました。最終日24日(水)には、作成した大学紹介資料をもとに成果報告会を行いました。

今回のインターンシップを終えて、古岡さんは「大学紹介ツール作成において、構成素材をひとつひとつ考証しなければならなかった点と、意味のあるものだけを使用し、よりメッセージ性の強いものにしなければならなかった点が反省点です。大学は構成員全員が各々全力を出し、それらがうまく噛み合わさってようやく円滑に動いていくということ、身に染み

て理解しました。9日間の経験で今後、“大学”や“地域”といった概念を改めて考え直し、研究活動につなげていきたいと考えております。教職員の皆さんの暖かい気持ちや言葉から学んだ“人間学”を胸に、挑戦を続けていきたいと考えております」と反省点と今後の課題を語っていただきました。

(企画課)



プレゼンテーションを行う古岡さん

## 留学生のためのバザーを開催

9月11日(木)～18日(木)に「第4回留学生のためのバザー」を開催しました。このバザーは、生活習慣の違う外国人留学生が、少しでもはやく日本の生活に慣れ本学での勉学に専念してほしいと、留学生の生活支援を目的に企画したもので、なべや洗剤、台ふきん、スー

ツケースなど本学教職員より様々な品物を提供いただき、開催することができました。バザーに来ていた留学生は、「日本に来たばかりなので、生活にすぐに使えるものがバザーに出ているのはうれしい」と目を輝かせて品物を選んでいました。

(GLOBAL SQUARE)



バザーの品物を選ぶ留学生

## 本学学生が仏教クラブ第一回奨学金をうける

京都を中心とした寺院と関連業者でつくる仏教クラブによる「仏教クラブ奨学金」の第一回授与式が9月12日、京都センチュリーホテル（京都市下京区）で行われました。

仏教クラブ奨学金は、仏教クラブの事業による浄財をもって、留学生が大学において仏教に関する研究をおこなうために必要な資金を援助することを目的としています。

第一回奨学金授与者として本学

の楊小露さん（仏教学専攻 修士課程第2学年）が選ばれ、授与式の後には今後の研究と将来の抱負について発表を行いました。

楊さんは今回の受賞について「仏教クラブからいただいたこの貴重な励みに対して、心から感謝しております。留学生にとって、勉強とアルバイトをうまく両立させることは、なかなか大変なことです。暖かいご援助をうけることは、まさに、雪の中、炭を送ることとなります。仏教クラブの方々に感

謝の意を申し上げます。まことにありがとうございました」と話してくれました。（企画課）



楊小露さん

## オープンキャンパス全日程が終了

9月13日(土)、今年度予定されていきました最後のオープンキャンパスが開催されました。今年度は、2009年4月に開設予定の「教育・心理学科」への関心の高さもあって、昨年度を300名近く上回る来場者があり、盛会のうちに終了することができました。

オープンキャンパスでは、毎回40名ほどのボランティア学生スタッフの参加があり、学生生活の相談やキャンパスツアー等に協力いただきました。高校生と在学生在が

楽しそうにキャンパスを歩いている様子がいたるところで見られ、来場者アンケートにも「優しく案内してもらいとても良かった」、「スタッフの先輩方の生き活きとした顔が印象に残った」等の感想が多く見られます。

今回、ボランティア学生として協力いただいた大塚竜之介さん（文学科第1学年）は「高校生との触れ合いはさることながら、他学科の学生たちや大学関係者の方々と協力できたことが何より嬉

しいです。自分も谷大の一員なのだと自覚することができました。」と感想を述べられました。

（入学センター）



ボランティア学生スタッフとのフリートークの様子

## 大谷幼稚園開放セミナーを開催

9月27日(土)、宇治市木幡の大谷幼稚園にて、大谷幼稚園開放セミナーが開催されました。このセミナーは、大谷幼稚園の地域開放・住民の生涯学習に資する機会として開催したものです。6月に引き続き、本学の谷口奈青准教授が講師として「子どものフシギ」というテーマで講演しました。

谷口先生はカウンセリングの経験から、多くの保護者が子どもの急な気分の変化にとまどい、「自分の子はワガママなのでは」、「自分の育て方が悪いのでは」と悩ん

でいるけれどもそうではないこと、子どもとは「小さい人」なのでもちこたえるキャパシティーも当然小さく、「今ここ」のことしか対応できないだけであり、「子どもにとって『ちょっと』は5秒、『す



谷口先生を囲んで熱心に聞き入る受講生たち

ぐ』は2秒」と話をされ、講演後は熱心な質疑の応答となりました。

参加された方は一人ひとり、子どもの個性に合わせて見守り育てるには、自分はどうかわるのかについて、再確認したのではない



みんなで手遊び

でしょうか。

また当日は、保護者の方々が谷口先生のセミナーを受講している間、児童文化研究会の学生が子どもたちに人形劇や手遊び等をして

くれました。

お兄ちゃんたちと遊んだことがとても楽しかったらしく、「将来は大谷大学に行って幼稚園の先生になる」と言ってくれた子もいま

した。

大谷幼稚園開放セミナーは、今後も定期的に行っていく予定です。  
(教育研究支援課)

## 課程博士の学位を授与

本学では、博士後期課程修了者の山下基宏さん（国際文化専攻）に博士（文学）の学位を授与しました。本年3月末に提出された学位請求論文の審査が終了し、去る9月30日(火)に学位授与式が行われました。

(教務課)



山下基宏さん

## 大学院特別セミナーを開催

10月6日(月)から17日(金)まで、2週にわたり大学院特別セミナーが開かれました。今年度は、昨年度にひきつづき、マールブルク大学福音主義神学部教授であり実践神学の研究が専門であるゲルハルト・M・マルティン教授が本学客員教授としてセミナーを担当されました。

セミナーは「“私”を超えてゆくこと：実存神学の中心的テーマについて—浄土真宗との対話の中で—」を主題にして、講義と演習（質疑応答・自由討論）形式によって進められました。自明のものとしてされている「私」という概念の

再検討、宗教的文脈では見過ごされがちな「身体」、教えの現実性としての「教会」と「サンガ」、このような様々な問題が互いに結びつけられた形で講義されました。

また、聖典・経典などのテキストを解釈する上で身体の運用をしながら解釈の多様性を模索していく「聖書劇(Bibliodrama)」の手法が取り入れられ、『観無量寿経』の阿闍世の物語を題材にして受講者全員が実演し、経典が観念的だけでなく身体的に経験されることの重要性を発見しました。

また、10月10日(金)には「キリスト教における肉体的存在、社会

的・精神的身体—大乘仏教との対話における一つの手がかり?—」という講題で公開講演会が行われました。講演終了後はビッグバレーにてレセプションが開かれ、講師と聴講者とが親睦を深めました。



公開講演会でのマルティン教授

## 「全国父母兄弟懇談会」を開催

10月4日(土)、全国から多数のご父母兄弟が本学に集い、「教育後援会全国父母兄弟懇談会」が開催されました。

第I部の全体会では、相馬温副会長の開会挨拶に始まり、木村宣彰学長からは、大谷大学存立の意義と、本学の教育についての基本姿勢が述べられました。続いて、

大学の教育・研究活動について現況報告があり、その後、卒業後の進路・就職活動準備に向けての説明がありました。

全体会終了後、個別相談会並びに響流館を中心とした施設見学・博物館の観覧等が行われました。

個別相談会では、学科・成績・進級、進路・就職、海外留学、学

生生活並びによろず相談の各コーナーが設けられ、指導教員との面談など、熱心な相談が寄せられました。

博物館では、特別展「聖徳太子伝の世界」が事前公開され、国宝三点を含む多数の貴重資料を目の当たりにされたご父母兄弟は、博物館の立派な展観に大変驚嘆され

た様子でした。

第Ⅱ部の懇親会は、会場を京都  
ブライトンホテルに移しました。  
教職員も出席し、各学科の教員と  
ご父母兄弟とが直接意見を交わす  
場となり、とても有意義なひと  
ときを過ごしていただきました。

(校友センター)



第Ⅰ部 全体会の様子



開会の挨拶をする相馬温副会長

## 課外教育行事—異文化との出会い— インド映画『ボンベイ』上映！

去る10月8日(水)、本学講堂にて  
マニラトナム監督・脚本のインド  
映画『ボンベイ』を上映しました。  
この映画は1995年にインドで上映  
されたもので、実際に起きた事件  
をもとに映画化されたものです。  
日本でも1998年に一般上映されま  
したが、現在では『ボンベイ』の  
DVDなどは廃盤となっており、今  
回の上映に際しては、様々な方面  
からのご協力をいただきました。

「人間学」の授業や「インド研  
修」の実施などによって、本学学

生とインドは、感覚としては比較  
的身近なものと思われませんが、イ  
ンドにおける宗教と人間の問題、  
特に異教徒間の争いの問題につい  
ては、理解を超える部分がありま  
す。このような問題を自らが考え  
る機会として、今回『ボンベイ』  
を上映するに至りました。

上映会場では、ヒンドゥ教とイ  
スラム教の違いについて上映直前  
に山本和彦准教授より解説いただ  
いたことで、映画を観る視点も深  
くなり、当日来観された多くの

方々からは、「ぜひこういった機  
会を増やして欲しい」、「深く考え  
る機会を得た」などのコメントを  
多数いただきました。

(学生支援課)



作品の紹介をする山本准教授

## 紫明学区民親睦大運動会へのボランティア協力

10月12日(日)に、大学周辺の紫明  
学区民親睦大運動会が開催されま  
した。この運動会の運営サポート  
に本学の児童文化研究会の北後匡  
規さん(哲学科第4学年)、貞光  
健二さん(哲学科第4学年)、木  
下ひとみさん(社会学科第3学  
年)、法山孝照さん(国際文化学  
科第1学年)、金光拓也さん(人  
文情報学科第1学年)の5名が参  
加しました。

紫明学区では、毎年、紫明体育  
振興会の主催のもと、約40町内会  
が参加して大運動会が開催されて

おり、今年で56回目となります。  
近年では競技への参加者の多さに  
比べ、運営側の高齢化や人手不足  
により、競技の進行に負担が多く  
なってきたことから本学学生  
への協力依頼がありました。

大運動会当日は、おもに競技の  
準備係や、審判係を務め、またボ  
ール送り競争に参加し、大会を盛  
り上げました。

大運動会に協力した木下さんは  
「高校生以来の運動会は、懐かし  
くとても楽しい1日でした。町内  
会の方がこの運動会にけるエネ

ルギーには驚きました。町内会一  
丸となって運動会を盛り上げてお  
られ、そのお手伝いできて嬉し  
かったです」と感想を述べてくれ  
ました。

(企画課)



玉入れを手伝う北後さん(写真右側)

## 開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

10月13日(月・祝)、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が挙行されました。10月13日を開学の日とするのは、近代的大学として出発した1901(明治34)年10月13日に開校式が挙行されたことによります。

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者表彰と記念講演が行われました。今年勤続30年を迎えられ

た教育職員、事務職員合計6名の方々に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、東京大学名誉教授で国際仏教学大学院大学学長、日本印度学仏教学会前理事長木村清孝氏より「いのちの輝き」の講題で講演を頂きました。

(総務課)



木村清孝氏

## タイ仏教美術公開講演会を開催

10月23日に、タマサット大学(タイ、バンコック)のニコラ・ルビル(Nicolas Revire)氏を迎えて、「ドゥヴァラヴァティ仏教美術と図像」(An Overview of Dvāravatī Art & Iconography)と題する公開講演会が、マルチメディア演習室で開催されました。この講演会は、真宗総合研究所国際仏教研究班と仏教学会との共催で行われたものです。講演は英語で行われ、シヨバ・ラニ・ダシュ非常勤講師が通訳してくださいました。

タイのドゥヴァラヴァティは、玄奘三蔵の『大唐西域記』にも「墮羅鉢底」として登場する文明です。ルビル先生は、スライドによって豊富な実例を提示しながら、ドゥヴァラヴァティ様式の仏教美術が、クメール様式はもとより、遠くインドのグプタ様式や中国唐代の美術、日本の仏教美術とも重要な関連があることを指摘されました。

国際仏教学大学院大学のユベール・デュルト教授をはじめ、学外

からも多くの方が参加して下さり、閉会の後にも盛んな質疑応答が交わされていました。

(仏教学会)



ニコラ・ルビル氏

## 博物館秋季企画展の開催

期間：9月9日(火)～27日(日)

本館所蔵の重要文化財『春記』(平安時代・藤原資房の日記)の紙背(裏)には密教の聖教しうきやうが書かれています。従来この聖教は『大

日経秘要抄』であるとされてきましたが、近年の調査により『顕密立教差別記』と訂正されました。今回の展覧会では本館蔵『春記』、京都国立博物館所蔵の『春記』を

中心に、同系統の東寺本と関連の聖教を紹介しました。あわせて大谷大学博物館学課程実習生による実習生展を開催しました。

(図書・博物館課)

## 博物館シンポジウムを開催

秋季企画展「重要文化財『春記』と紙背聖教—平安貴族の生活と信仰—」開催に際し、9月13日(土)にシンポジウムを開催しました。羽田聡氏(京都国立博物館)「『春記』のさまざまな写本」、宇都宮啓吾氏(大阪大谷大学)「『春記』の紙背に記された読み方の作法」、頼

富本宏氏(種智院大学)「『春記』の紙背に書かれた密教の教え」と題した基調講演をしていただきました。続いて本学東館紹見准教授の司会のもと、『春記』の裏面に密教の聖教が書かれているのは何故かという点をめぐり、熱心な討論が繰り広げられました。

(図書・博物館課)



シンポジウム風景

# 大谷大学・大谷大学短期大学の 学科新設・コース改編について

本学では、めまぐるしく変化する社会の動向を踏まえ、  
地域社会からの要望に応じていくことを目的に、  
新学科の設置、既存学科のコース改編等を、  
2009年4月に行う予定をしています。

## 【文学部】学科新設

### ●教育・心理学科

小学校・幼稚園教諭の養成（認可申請中）を目的とした「教育・心理学科」を新設します。

いのちの大切さを深く認識し、人を思いやることを身につけ、こどもの“こころ”がわかる教員を育成するために、建学の理念である仏教精神にもとづく学びとあわせて、教育学・心理学の2つの専門を学ぶことを特徴としています。

なお、教育・心理学科の開設にともない、従来の哲学科教育学コース、社会学科臨床心理学コースは2009年4月より、学生募集を停止いたします。

## 【文学部】コース改編

### ●哲学科

- 西洋哲学・日本哲学コース
- 倫理学・人間関係学コース
- 宗教学・死生学コース

これまでの、西洋哲学・倫理学・宗教学の3コースが担ってきた教育・研究活動の範囲を拡大し、日本哲学・人間関係・死生学などのエポックメイキングな課題にも対応する3コースに改編されます。

現代の諸問題に取り組む人物の育成をめざし、社会の中で「あるべき自分」を考え、今を生きる知恵を身につける“21世紀の哲学”を展開していきます。

## 【短期大学部】コース制新設

### ●仏教科

- 人間とこころコース
- 実践仏教コース

学生一人ひとりがめざす目的に応じて選択できる2つのコースを新設し、充実した学びの環境を提供します。

#### ①人間とこころコース

真宗学・仏教学の基礎を2年間で学び、仏教の視点から人間とこころについて深くじっくりと考え、自分自身と他者を見つめる眼差しを養います。

#### ②実践仏教コース

真宗大谷派教師の資格を2年間で無理なく取得します。ブツダと親鸞の生涯と思想を基礎から学びます。さらに、儀式作法などの実践的な科目を学び、仏教によって社会を生きる人物を養成します。

なお、短期大学部文化学科は、2009年4月より、学生募集を停止いたします。

(注) 今年度実施する2009年度入試及び各学科の募集人員については、  
大学「入試情報ホームページ」を確認してください。  
<http://www.otani-univ.net/nyushi/index.html>



ここしばらく私は「東南アジア大陸部における生成的コミュニティ」という共同研究を進めるなかで、人間が他者に成ること、あるいは他の物に成ることとは、どういう事態なのかと考えてきた。この「成る」ということは「生成変化」であり、何ものかに変容する、変化する、変態することとは区別しなければならない。この生成変化はニーチェがしばしば言及するWerdenと言ってもよく、フランス語ではdevenir、英語ではbecomingという言葉が相当する。

生成変化の考えが広く人文・社会科学の分野で論じられるようになったのは、フランスの哲学者G. ドゥルーズと精神病理学者F. ガタリの共著『千のプラトー』（1980）に負うところが多い。その第10章「強度に成ること、動物に成ること、知覚しえぬものに成ること……」で彼らはメルビルの『白鯨』、カフカの『変身』、カスタネーダの作品、数々の民族誌や幻想文学などを参照しながら多様な生成変化のカタログを提示する。彼らが主張する生成変化の概念は、進化論における系統発生や系統樹のようなものではなく、異質な個体群のあいだで引きおこされ

る多数多様体的な関係に関わっている。つまり進化や発展のように一方向に向かって系統的に変化するのではなく、一つの個体群の特徴ある形態や行動が他の個体群に横断的に伝染、伝播しながら多種多様な形を形作っていくのである。

こうした生成変化の現象はじつに多様であるが、狼人間、吸血鬼やネズミ男のように人間が動物に成ること、あるいは呪術、妖術や憑依によって超自然的な存在に成ることなどはその典型である。そして何よりもドゥルーズとガタリが強調するのは、男性から女性に生成変化することである。こうした現象は夢や想像のなかでおこるのではなく、あくまで現実のなかで進行するのだ。生成変化は多くの場合、国家や家族といった近代の秩序からかけ離れた領域、つまり流動的な境界に位置を占めている。さらに注目すべきことは彼らが、人類学者E. リーチによるビルマ高地のカチン人の研究に依拠しながら示すように、生成変化は群れの現象、言い換えれば社会的、コミュニティ的な現象でもあるということだ。それは系譜的な関係を通して伝えられるのでは



### 生成変化

田辺 繁治

なく、偶然の出会いや感染、あるいは契約や同盟などで作られる関係によって群落的に広がっていく。

生成変化は人類学ではなじみ深い現象であり、古くからさまざまな文化のなかで語られ実践されてきた。しかし今日のグローバル化する世界のなかで、生成変化の現象は昔話や奇譚だけではなく、新しいリアリティをもって登場しているように思える。東南アジアのコミュニティ形成のなかにそうした生成変化の方向性を見つけだすことが、私たちにとっての当面の課題である。難民や帰還民のコミュニティ、農村から都市に移住した労働者のコミュニティ、反資本主義的な新仏教運動、近代医療とは異なる治療師の集団、HIV感染者の自助グループなどがその例である。これらの集団でとくに注目しているのは、これまで人びとが帰属し経験してきた家族、親族あるいは村落や地域とは異なって、彼らが新たな関係性を想像して、そこに自らを投げ込んでいくという生成変化の局面である。

生成変化は人間が動物に、あるいは男性が女性に実体的に変化してしまうことではない。また動物や

女性を模倣し、それに同一化することでもない、とドゥルーズとガタリは言う。生成変化はマジョリティに同化吸収されることではない。反対に、生成変化はマイノリティに踏みとどまって、マイノリティであり続けることである。例えば、晩年のフォーコーのように、自らゲイであることを宣言し、ゲイに成り続けることである。ブラックはホワイトの同伴者となるのではなく、よりブラックに成り続ける。HIV感染者は感染者としてマイナー性であり続ける。こうした持続的にマイノリティであることこそが、マジョリティの支配、均質化した主体の増殖、グローバル化する権力システムに抗する新たな創造性を生み出すのではないかと考えたいのである。

（たなべ しげはる）  
教授 社会人類学

# 国際交流トピックス

## 2008年度 海外研修を終えて

### インド仏教遺跡研修 (インドの宗教と文化)

#### 第1班

8月23日(土)～9月6日(土)

参加学生数24名 (引率者3名)

#### 第2班

8月30日(土)～9月13日(土)

参加学生数16名 (引率者3名)

#### ○おもな研修地

四大仏跡 (ルンビニー・ブッダガヤ・サルナート・クシーナガラ) カピラヴァストゥ、サヘート (祇園精舎)、マヘート (舎衛城)、ヴァイシャーリー、ラージギル (王舎城)、ナーランダ仏教大学跡博物館：デリー国立博物館、サルナート考古学博物館、マトゥラー州立博物館

ヴァラナシ (ガンジス川西岸のガート・旧市街)、マトゥラー (ヤムナー川西岸のガート・周囲のパザール)、デリー (ビルラーハウス・ラージガート) タージマハル、インド舞踊鑑賞

仏教とは何か。仏教が誕生したインドとはいかなる場所なのか。このような素朴な問いを持ってインドの大地に立ってみよう。「インドの宗教と文化」と題した事前講義でこのように学生たちと確認しあい、今年度も現地研修を無事に終えることができました。

釈尊誕生の地であるルンビニー (現在ネパール)。成道の地ブッダガヤ。初転法輪の地サルナート。入滅の地クシーナガラ。これら仏教の四大聖地と呼ばれる釈尊ゆかりの場所を訪れるのが最大の目的でした。そして、デリー国立博物館・サルナート考古学博物館・マトゥラー州立博物館に所蔵される数々の重要な出土品を間近に見たことは研修の大きな成果だったと言えるでしょう。一方、青年ゴータマが釈迦族の王子として過ごし、老・病・死の苦悩についての言説が開始される四門出遊のエピソードで知られるカピラヴァ

ストゥの遺構を見ながら歩きました。あるいは『観無量寿経』でよく知られる霊鷲山に登り、王舎城の悲劇の物語を思い出しながら山頂から雄大な景色を見たことも貴重な体験だったのではないのでしょうか。

宗教間の対立・貧困・環境汚染など、様々な問題を抱えながらも21世紀のインドは、さらに大きな変貌を遂げつつあります。首都デリーでは、国際空港の新設や地下鉄の工事など、大規模な公共事業が着々と進められています。郊外には、新しい都市計画のもとマンションが次々と建ち、公園が整備され、新しいショッピングセンターができてきました。欧米の生活スタイルを好む新しいインドの姿がそこにはあります。デリーなどの都市と今回訪れた仏跡があるビハール州などの農村とにおけるあらゆる落差にはあらためて驚かされます。はじめてインドを訪れた



ヴァイシャーリーにて



サルナートの迎仏塔の前で



祇園精舎での勤行



インド舞踊鑑賞の後に

学生たちにとっては、何もかもが新鮮だったようです。

今年は長雨の影響によりビハール州では洪水による甚大な被害が出ていました。インド国内は、列車とバスで移動します。現地滞在中は幸い天候に恵まれましたが、橋が崩壊しバスが通れないところもありました。多くの人たちの助けをかりスムーズに移動することができましたので、結果として大きな問題にはなりませんでしたが、それでも、インドの風土に慣れない学生たちは時に困惑し、疲労を隠せない時があったのも事実です。

インドの詩人タゴールは、1924年に中国や日本を訪問すると同時

に「蛍」(Fireflies) という短詩をのこしています。

私の空想は蛍——  
暗やみにまたたく  
生きている光の斑点。

眠りに入ろうとする心の暗い洞窟で、  
夢たちはねぐらを作る  
昼の旅路からこぼれ落ちたかけらで。  
(大岡信訳「蛍」)

『タゴール著作集』第2巻)

田園地帯をバスに揺られバルランプルにあるインド様式のホテルに着いた我々は、夕食後すっかり日が暮れたホテルの広い庭に出

てみることにしました。暗やみの中、目の前の大きな木を見上げると、無数の蛍の光が浮かび上がっていました。昼間に見られる往來の喧騒、砂埃、強烈な陽射しとは対照的で、旅の疲れが癒された瞬間でした。タゴールは言います。「静かなるものの声が私の言葉に触れたとき、私は彼を知り、すなわち私自身を知る」と。いつまでも光の斑点を見つめていました。帰国前夜、「ほんとうにインドに来てよかった」と語る学生たちの目の輝きがとても印象的でした。

(箕浦 暁雄)

## 英国 キール大学短期英語研修 (イギリス文化研究・実践英語)

8月10日(日)～9月4日(木)  
参加学生数 16名 (引率者2名)

- キール大学にて語学研修 (19日間)
- 文化研修：ストラットフォード・アポン・エイヴオン、リヴァプール、チェスター、オックスフォード、ウェッジウッド工場見学、農場見学
- ロンドンにて文化研修 (4日間)

今年度の英国短期英語研修は、昨年度と同様、イングランド中部



リンジー・コート (寮) でのパーティ

のキール大学において、大東文化大学（参加学生19名）と合同で行われました。天気の変わりやすさと習慣の違いに戸惑いながらも、イングランド随一の広さを誇るキャンパスで、学生たちは皆充実した生活を送ることができたのではないかと思います。

学生たちは滞在期間の半分をホームステイ、半分を寮で過ごしました。研修の内容は、会話の授業と、プロジェクト・クラスと呼ばれる授業が中心です。プロジェクト・クラスは、グループごとにテーマを決めてインタビューを行い、その結果をまとめてポスターを作成し、最後にプレゼンテーションを行うというものです。どのグル

ープも工夫を凝らしたポスターを作って発表を行いました。その他にイギリスの陶器、食べ物、建築についての興味深いレクチャーもありました。

小旅行で訪れたリヴァプールは、中心部の再開発が進み、活気にあふれていました。城壁に囲まれた町チェスターは、訪れたのが土曜日ということもあり、大変にぎわっていましたが、静かな大聖堂で聖歌隊の賛美歌を聴き、心が洗われる思いをした学生もいたようです。キール大学からほど近いストーク・オン・トレントはボーン・チャイナ発祥の地で、今もいろいろな陶磁器メーカーの工場が存在しています。町の南部にあるウェ

ッジウッドの工場では、職人の技を間近で見ることができました。また、今回は初の試みとして農場見学がプログラムに組み込まれていました。牛、馬、ニワトリなどのほかに、クジャクや、リアという小型のダチョウもいて、楽しい半日を過ごすことができました。

慣れない海外での生活を暖かく支えてくださったキール大学のスタッフ、ホスト・ファミリーの皆さんには、大変感謝しています。この夏の研修での経験が、参加者の今後に少しでも活かされることを願っています。

（浅若 裕彦）



チェスターの街



アン・ハサウェイの家にて

## ヨーロッパ文化研修〈ドイツ〉（ヨーロッパの宗教と文化）

8月28日(木)～9月9日(火)

参加学生数 26名（引率者2名）

### ○おもな研修地

ドイツ（ヴェルツブルク、バンベルク、ニュルンベルク、レーゲンスブルク、パッサウ、フュッセン、ミュンヘン、ネルトリンゲン、ディンケルスビュール、ローテンブルク、ハイデルベルク）、オーストリア（リンツ、ウィーン、ザンクト・ヴォルフガング、ザルツブルク、インスブルック）



映画『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台ザンクト・ヴォルフガングにて

今年度のヨーロッパ文化研修〈ドイツ〉には、26名の本学学生が参加しました。現地研修は、本学教員2名、添乗員2名の引率のもと、8月28日から9月9日までの13日間にわたりおこなわれました。

事前講義ではアルブレヒト・デッケ=コルニル教授がドイツ語圏の国々および実践的なドイツ語会話に関する基礎知識を教授しました。また、廣川智貴講師による講義では、学生自身が研修先の町を詳細に調査し、それに関する資料を作成し参加者に報告しました。

このような事前講義を経て、参加者は現地での実習に臨みました。現地では、世界遺産であるヴェルツブルクのレジデント、リンツ近郊のメルク修道院、ウィーンのシェーンブルン宮殿、フュッセン近郊のノイシュヴァンシュタイン城、世界遺産ヴィース教会などを見学し、学生たちは日本とヨーロッパの文化の違いを肌で感じ、深い感銘をうけたようです。とりわけ、

ディズニーがシンデレラ城のモデルにしたというノイシュヴァンシュタイン城の美しさに、しばし言葉を失う姿もみうけられました。

また、今回の研修旅行では、事前学習をふまえて自分なりの研修をしてほしい、という願いから、比較的多くの自由研修時間をもうけました。最初はドイツ語をはじめとする異文化に当惑する学生もみられましたが、数日後にはそれぞれが言葉を駆使し、自分の興味に応じて積極的に研修をおこないました。

最終日には「この研修に参加してよかった」、「また、ドイツに来たい」という声が多く聞

かれ、それぞれが実りある研修をおこなったようです。そして、一段と頼もしく成長して帰国の途につきました。

(廣川 智貴)



メルク修道院にて

## 韓国 東西大 短期韓国語研修 (韓国文化研究・実践韓国語)

8月6日(水)～9月1日(月)  
参加学生数 8名 (引率者2名)

### ○東西大 短期韓国語研修

午前 授業

午後 授業または文化体験

### ○小旅行

慶州、公州、天安、ソウルなど

今回は学術交流協定締結後初の記念すべき韓国語研修ということで参加者8名と規定の人数よりも若干少なめでしたが、今後の両校のさらなる友好を祈願する意味で研修が決行されました。

釜山は日本と韓国とをむすぶ港湾都市であり、朝鮮戦争にも焼け残った昔の建造物があるかと思えば、最先端の開発地区が混在する

不思議な魅力のある街です。韓国第二の都市釜山での研修は人の情に触れながら安心感をもって勉強

できるという点でソウルよりも勝っているといえるでしょう。

東西大で語学教育を担当し



鴨肉料理店の前で東西大の先生たちと

ている東西語学堂のパク・ヒガン院長や金載仁（キム・ジェイン）さん以下、職員の方々には今回も大変にお世話になりました。東西大は近年急成長をとげている大学で、産学協同プロジェクトや国際交流の面でさまざまなチャレンジを続けています。山の斜面にひろがる広大なキャンパスと最新の設備には研修に参加した学生たちも目を見張っていました。

午前の授業は9時半から12時半までで、東西大の李恩美（イ・ウンミ）先生が講義を担当されました。たいへん明るく人をぐいぐい引っ張っていく李先生の授業を通じて、学生たちは今の韓国の生の姿に触れることができたと思います。

午後は日によって教室での授業、文化体験、実践学習を行いました。文化体験では陶磁器を制作したり、

伝統衣装を着ての礼節教室などが開かれ、実践学習では教室を飛び出し指示にしたがってオリエンテーリングをしたり、街行く人に実際に話しかけてみるということをしました。また、UN墓地や韓国近代歴史館などを見学し、釜山から見た韓国と日本の近代史について考える時間をもうけたりもしました。

東西大には現在、樋口忠宣さん（史学科第4学年）が交換留学でお世話になっていますが、今回の研修団の世話役を進んでひきうけてくれました。樋口さんが日ごろ懇意にしている東西大の学生たちや、チューターをつとめている高校の生徒らとの懇親会を計画するなど、頼もしい働きぶりでおかげで交流の幅がさらに広がったと思います。また慶州に留学中の竹口卓志さん（国際文化学科第

3学年）や本学卒業生でソウルの東国大の大学院に在学中の山本明奈さんも釜山を訪ねてくれ、彼らの韓国での活躍ぶりは研修参加者にとってよい刺激となったようです。語学研修終了後は6日間をかけて慶州、公州、天安、江華島、ソウルへと北上し、世界遺産や文化財を見てまわりました。北緯38度線の近くまで行って、はるかに北の地を望むなど、韓国の過去・現在・未来を展望する印象的な旅となりました。

参加学生からは「一ヶ月があったという間だった」という声があがるくらい、内容の濃い研修となったようです。この研修が肥やしとなって今後自分なりの花を開かせていってくれたらと願っています。

（喜多恵美子）



語学堂での授業風景



竜宮寺の門

# 2008年度 大谷大学 学園祭「紫明祭」

期 間：2008年11月7日(金)～11月9日(日)

テーマ

「祭人 歌人 踊人」

2008年度大谷大学学園祭実行委員会

委員長 青山 高宏



入学して3度目の秋がやって来ました。学園祭の準備が進むに連れ、その分時間も減っていきます。そんな限りある時間の中で、私たちは、それぞれ頭に思い描いた理想の学園祭の実現に向けて日々頑張っています。

「学園祭」と一言と言っても決して毎年同じであることなどありません。昨年度、私は「縁の下での力持ち」とされる総務局の局長を務めました。皆さんが手にするパンフレットの作成、皆さんに学園祭やイベントの宣伝をする広報活動、準備期間や学園祭中の様子を撮影する部長たちを取りまとめていました。もちろん学園祭成功による達成感はありません。ただ、今年はより高い理想とともにより大きな達成感を得ることができるような期待で胸が膨らみます。

昨年には昨年の特色があり、今年には今年の特色があります。それは、委員会を構成する人員が入れ替わることや新しい委員会幹部の考える企画によっても変化します。学園祭に変化を起こす鍵を握るのは、学園祭に参加される皆さんだと考えています。しかし、私たちが学生の皆さんや教職員の方に投げかけた「学園祭」にかける想いを、皆さんが受け止め、私たちに対してどのように発信してもらえるのでしょうか。今年の学園

祭はどんな色になるのかと密かに楽しみにしています。

上にもあるように今年度学園祭のテーマは「祭人 歌人 踊人(まつりびと うたいびと おどりびと)」です。これには学園祭に参加する全ての「祭人」が「歌」と表現した催し物により心「おどる」学園祭にしたいという願いが込められています。また、プロのアーティストによるコンサートや学内外から音楽団体を募集し、彼らに「歌」を造り出してもらいます。最後に後夜祭でダンスチーム

による「踊り」で締めます。今年度のテーマは、このような意味も込めて作られています。

皆さんにはそんな想いが込められた学園祭に参加していただき、ぜひ「祭人」として学園祭を盛り上げる一員になっていただきたいと思います。また、私たちが実現しようとしている学園祭をからだで感じていただきたいです。

主催する側として皆さんの「祭」への参加を心よりお待ちしております。間もなく2008年度学園祭「紫明祭」の幕明けです。



# タイムテーブル

期 間：2008年11月7日(金)～11月9日(日)

日	場 所	イベント名	時 間	内容概略
7日(金)	野外ステージ	前夜祭 Feel my PERFORMANCE !!!!	16:00～19:30	2008年度学園祭「紫明祭」を盛り上げるための前哨戦。ボールリフティングやハモタニ等。
	講堂棟	VIVA体育会	13:00～16:00	体育会内部のイベント。
8日(土)	野外ステージ	Feel my SOUND !!!!	10:00～14:00	学内で活動している音楽団体のライブ。
		プロのアーティストによる コンサート	17:30～19:30	5人組のロックバンド「FLOW」が谷大にて生演奏。
	博綜館 第1会議室他	第13回大谷大学同窓会 ホームカミングデー ～同窓生 母校への里帰りの1日～	13:00～16:00	同窓会主催の同窓生の里帰り企画。
	2号館 (2301教室)	三津田信三講演会・サイン会	13:00～17:00	推理小説研究会による講演会。
	響流館3F メディアホール	第5回全国高校生「人間が大好きです！」 表現コンテスト表彰式	11:00～12:30	大谷大学・KBS京都主催の映像やホームページによるコンテストの表彰式。
9日(日)	野外ステージ	Feel my SONG !!!!	10:00～14:00	学外で活動している音楽団体のライブ。
		後夜祭 Feel my DANCE !!!!	16:30～19:45	2008年度紫明祭の幕引き。ダンスイベントが中心。
	野外ステージ周辺	谷大のふうせん屋さん	14:00～16:00	風船の無料配布。
	2号館前広場	北区 地域と大学つながるネット フリーマーケット	10:00～16:00	主に大学周辺地域対象のフリーマーケット。
8日(土) 9日(日)	博綜館ピロティ	OBSサテライトスタジオ	8日 10:00～19:00 9日 10:00～20:00	大谷大学放送局による公開生放送。各種録音番組やイベントを企画。
	1号館	展 示	8日 10:00～18:30 9日 10:00～18:00	学生が日頃の活動の成果を発表する。
	キャンパス内	模擬店	8日 10:00～19:00 9日 10:00～18:00	各団体の個性あふれる模擬店。
	講堂棟食堂	サントリー酒場	16:00～19:30 (酒の販売17:00～)	大谷大学体育会主催の酒場。
	博綜館保健室前	タバコ被害測定	13:00～16:00	呼気一酸化炭素濃度の測定でタバコによる害の程度をチェック。

委員会ホームページ (<http://shimeisai.moo.jp/>) も御覧ください。

イベント・時間や出演者の変更等がありますので、御了承願います。



## 総務課

### 大谷大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要

大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要を右記の日程で厳修いたします。皆さんお誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 11月27日(木) 午前10時  
 場所 講堂  
 (記念講演)  
 講師 本学名誉教授 白井元成氏  
 講題 宗祖親鸞聖人の教えに学ぶ  
 —悲喜交流—

### 年末・年始の日程

12月26日(金) 宗祖御命日勤行  
 1月7日(水) 修正会  
 授業再開

## 教務課

### 真宗大谷派教師前期・後期修練、教師補任申請の説明会について

後期修練ならびに教師補任申請(大学院・文学部・短期大学の修了・卒業年次生主対象)の受講説明会を11月5日(水)に行います。

また、前期修練(短期大学部第1学年、科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コース生主対象)の受講説明会を12月中旬に行います。

受講予定者は教務課掲示板にて日時等を確認の上、説明会に出席してください。

### 修士論文・卒業論文の提出について

#### ◎論文提出・題目変更締切日について

来年3月、大学院修士課程修了見込み、文学部卒業見込みの学生は、右記の一覧表で論文提出締切日等を確認の上、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務課窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、右記の題目変更締切日までに教務課へ提出してください。

#### ◎提出場所について

教務課窓口へ提出してください。ただし、修士論文の提出最終日および卒業論文提出最終の2日間は右記の会場に提出してください。

#### — 題目変更・論文提出締切日時について —

種別	題目変更締切日時	論文提出締切日時
修士論文	12月3日(水)午後5時	12月10日(水)午後4時
卒業論文	12月15日(月)午後5時	1月10日(土)午後4時

#### — 提出最終日の会場について —

種別	最終日	会場
修士論文	12月10日(水)	至誠館会議室(至誠館2階)
卒業論文	1月9日(金) 10日(土)	多目的ホール (講堂棟3階)

#### (注意事項)

■論文等の提出方法や様式については『履修要項』や『修士論文作成の手引』『卒業論文作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、専攻やコースにより制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合、所定の書式以外で提出する場合は、所定の「ワープロ書式

所定外作成届」を教務課窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、題目変更締切日までに教務課へ提出してください。

■提出最終日の締切時間「午後4時」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。午後4時の段階で、この要件を満たしていない論文は受理できませんので注意してください。

## キャリアセンター

キャリアセンターは、就職や進学など、進路全般についての相談窓口です。相談や質問があれば、学年を問わず、キャリアセンターに来てください。

また、キャリアセンターでは以下のガイダンスなどを企画しています。詳細は、キャリアセンターから発送されるDMや掲示、学生向け情報提供システムなどで確認してください。

### 履歴書写真撮影（有料）

日 時：2008年11月11日(火)10：00～17：00	* 就職活動で必要となる履歴書用写真を、学内で撮影することができます。安価な価格設定になっていますので、ぜひこの機会に履歴書の写真を用意してください。
12日(水)10：00～17：00	
13日(木)10：00～17：00	
会 場：至誠館 2 階会議室	

### 就職ガイダンス<エントリー対策>

対 象：文学部第3学年、短期大学部第1学年 (仏教科・文化学科)、修士課程第1学年、 博士後期課程第2学年	* エントリーしなければ会社説明会や採用試験を受けることができません。エントリーの方法、企業の選び方、選び方のポイント、注意点などをガイダンスします。
日 時：2008年11月19日(水)17：50～19：20	
会 場：講 堂	

### 就職活動報告会

対 象：文学部第3学年、短期大学部第1学年 (仏教科・文化学科)、修士課程第1学年、 博士後期課程第2学年	* 内定を得た卒業年次の学生に、どのように就職活動をしたのか質問し、アドバイスを受けるチャンスです。今後の就職活動のためにもぜひ参加し、有益な情報をつかんでください。
日 時：2008年11月21日(金) 16：10～18：10	
会 場：響流館 1 階 ギャラリー	

### 短期大学部 履歴書作成講座

対 象：短期大学部第1学年	* 履歴書は採用試験を受ける際に必ず提出する書類です。年明けに本格化する就職活動に備え、この講座を受講して完成をめざしましょう。
日 程：2008年12月18日(木)・12月19日(金)	
会 場：至誠館 2 階会議室	
申込期間：12月1日(月)12：30～12月12日(金)17：00	

### 面接対策講座

対 象：文学部第3学年、短期大学部第1学年、 修士課程第1学年、博士後期課程第2学年	* 採用試験において、面接はほとんどの企業で実施されています。面接対策は1人でできるものではありません。集団面接・個人面接の対策を行い、自信を持って採用試験に臨みましょう。
日 程：2008年12月～2009年2月	
会 場：未定	

### 教員採用試験説明会

今年度の採用試験の結果をふまえて、公立学校や私立学校の採用試験（日程・傾向・対策など）について説明します。教職を希望する学生は必ず出席してください。

日時 2008年12月5日(金) 17:50~19:20  
会場 J103教室

### 教職登録カードについて

教職登録カードは、教職を志す皆さんが、教職支援センターで実施しているさまざまな支援やリアルタイムな求人情報を得るために必要な手続きです。教職を希望する学生で、まだ提出していない学生は教職支援センターに早急に提出してください。

### 教職支援講座 ③

教職アドバイザー 長谷川 浩三

#### 教員になるために <その3>

皆さんの中には、一応教職科目を履修しているが、本当に教員になりたいのか判らない。自分が教員に向いているかどうか判らない。一般企業の就職活動との併願はできるのだろうか。教員採用試験は難しそうと思っている人も多いと思います。教育実習を経験し、学校インターンシップを履修すると、これらの疑問や不安にあなたなりの結論が出てくるでしょう。しかし、教育実習に行く前に、決断が求められます。前回までに資格、資質について述べました。今回は意志についてお話しします。

#### 意志

一般企業をめざして就職活動をしたり、公務員試験を受験したりするなど、皆さんには多種多様な職種から仕事を選択する時期が必ずやって来ます。教員になるんだというしっかりした気持ちをすでに固めている人にとっては、大きな問題ではないでしょう。

しかし、自分が教員に向いているのか、本当に教員が務まるのか分からない人にとっては、苦しい選択を迫られることになります。しかも、じっくり考える時間の余裕はありません。

そこで、一つアドバイスをしましょう。それは、学校ボランティアに行くことです。実際に

学校に行って、生徒と接してみても自分の適・不適を判断することを勧めます。学校では、学生ボランティアを歓迎してくれます。1週間に2~3時間くらいの授業の空きコマがあれば、その条件でボランティアを探せばいいのです。出身校でなくていいのです。教員を志していることを伝えれば、受け入れてくれる学校は、必ず見つかります。1年前くらいから始めるのがいいでしょう。あれこれ考え悩むより、実行あるのみです。きっと、教員をめざすかどうかの決心がつくと思います。

(次号に続く)

## GLOBAL SQUARE

GLOBAL SQUAREでは、学生の留学や外国語学習をサポートするために留学説明会や語学勉強会、留学生との交流イベントを実施しています。留学や語学学習に少しでも興味のある方は、気軽に立ち寄ってください。みなさんの来室をお待ちしています。

各種イベントなどの詳細は、GLOBAL SQUAREのホームページや掲示板で確認してください。

URL：http://web.otani.ac.jp/gs/

### 語学勉強会

英語、韓国・朝鮮語、中国語、ドイツ語、フランス語、サンスクリットの勉強会を実施しています。定員に余裕のある勉強会は途中参加も可能です。興味のある方はGLOBAL SQUAREへお問い合わせください。

### 留学相談

個別の留学相談に応じています。相談希望の方は、カウンターで申し込んでください。

留学相談の時間

10：30～17：00（月～金）

### 学生スタッフ募集

GLOBAL SQUAREイベントの企画・実施や留学生のサポートなどをする学生スタッフを募集しています。国際交流や留学生との交流に興味のある人は、ぜひ参加してください。

### 「台湾仏教・文化体験研修」参加者募集

GLOBAL SQUARE主催により、台湾の学术交流協定校である佛光大学と佛光山寺を訪問し、台湾の仏教や文化に触れる「台湾仏教・文化体験研修」を開催します。台北市内の自由見学もあります。興味のある方は、GLOBAL SQUAREへお問い合わせください。

#### <研修予定>

日程：2009年3月3日(火)～  
3月9日(月)（予定）

募集人数：20名程度

研修地：

宜蘭（佛光大学）

高雄（佛光山寺）

台北（故宮博物院など）

研修内容：

- ①佛光大学見学と文化体験
- ②佛光大学学生との交流
- ③台湾仏教について講義
- ④佛光山寺にて体験学習と奉仕
- ⑤台北市内見学

## 図書館

### 冬期休暇中の図書館の館外貸出について

冬期期間は、以下のとおり長期貸出をいたします。通常の貸出手続きにより借り出している図書については長期貸出扱いにはなりません。改めて長期貸出の手続きをしてください。手続きには通常どおり、利用者カード（学生証・職員証などの図書館利用証）が必要です。

ただし、指定図書については長期貸出の対象外となりますのでご注意ください。

#### ■ 手続期間

12月5日(金)～12月27日(土)

#### ■ 返却日

1月13日(火) 厳守

#### ■ 貸出冊数（通常貸出冊数と同じ）

文学部／短期大学部生	10冊
大学院生／研修員	10冊
科目等履修生／聴講生／外国人留学研究生	5冊
教育職員／事務職員	20冊
非常勤講師	10冊
元教育職員／元事務職員（要申請）	10冊

\*変更が生じた場合、館内掲示やホームページにてお知らせします。

# 課外活動 イベント情報



## 課外活動の 活動予定



団体名	イベント名	日程	開催時間
	会場		
サッカー部	第86回関西学生サッカーリーグ 3部順位決定戦 (予定)	11月23日(日)~12月7日(日)	未定
	未定	>> <a href="http://www.eonet.ne.jp/~otani-univ/">http://www.eonet.ne.jp/~otani-univ/</a>	
サッカー部	第86回関西学生サッカーリーグ 2-3部入替戦 (予定)	12月13日(土)・14日(日)	未定
	未定	同上	
ソフトテニス部	京都学生新進大会	11月8日(土)・9日(日) 15日(土) (予備日)	9:00~
	同志社大学田辺コート 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3	>> <a href="http://www.geocities.jp/kyotogakuren/">http://www.geocities.jp/kyotogakuren/</a>	
写真部	冬舞展	12月4日(休)~9日(火)	11:00~18:00
	ギャルリー三条柳馬場 〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入る アサヒビル1階		
箏曲部	京都学生三曲連盟ジョイントコンサート	12月27日(土)	未定
	立命館大学衣笠キャンパス 以学館2号ホール 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1		
混声合唱団	大谷大学混声合唱団創立40周年記念定期演奏会	12月20日(土)	13:00 開場 13:30 開演
	京都コンサートホール大ホール 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-26	1,000円	
吹奏楽団	第20回定期演奏会	12月6日(土)	17:00 開場 17:30 開演
	京都市北文化会館 〒603-8142 京都市北区小山上総町49番地の2 <キタオオジタウン内>	>> <a href="http://www.geocities.jp/otani_brass/">http://www.geocities.jp/otani_brass/</a>	

## 学生相談室から

### 人に成るといふこと

先日内閣府が、今年七月、全国十八歳以上の男女五〇〇〇人を対象に実施し三〇六〇人が回答した成人年齢の十八歳への引き下げに関する世論調査の結果を発表した。それによると親の同意を得なくても高額商品を購入できる年齢を十八歳に引き下げること「賛成」十九%、「反対」七十八%、親権に服する年齢を十八歳に引き下げることには「賛成」二十六%、「反対」六十九%だった。反対の理由は「経済的に親に依存しているから」六十%、「自分のしたこと責任をとることができないから」五十四%だった。経済的に親に依存し、自分のしたことに責任をとれないから、十八歳には、成人に伴う権利と義務を託すことができないと判断する人が多いのであろうか。

成人は、人に成るといふことであり、



### 学生相談室の開室について

場 所	曜 日	学生相談員	開室時間
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	谷口奈青理 神田 敬子	10時30分～16時00分
	火曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分
	水曜日	宇佐 晋一	13時00分～16時00分 (第2週・第4週)
		(神経科校医) 神田 敬子	10時30分～16時00分
	木曜日	讓 西賢	10時30分～16時00分
金曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分	

心理学では、エゴ・アイデンティティの確立と表現される。日本人としての自覚をもって自己の生き方を見通すことである。相談室にいと、人に成るためには、生活上の権利や義務の前に、自分を見つめ受容することが優先されると気づかされる。とかく日本の社会と教育は、権利や義務ばかりに目を向け、自分を見つめ、受容することをおろそかにしているように思えてならない。

(ゆずり さいけん)

讓 西賢

# 谷大エリア散策

## 第33回 立命薬品さん

大学北門から西へ徒歩約3分、北大路室町西入南側の立命薬品さんを訪ね、ご主人の庄司喜昭さんと春子さんにお話をお聞きしました。



庄司春子さん

### —お店はいつ頃からですか

この薬局はもともと別の経営者の方がやっておられ、うちの父が権利を譲り受けたのが戦争中、昭和16～17年頃のことです。

### —店名の由来を教えてください

ちょうど店の目の前に旧制の立命館中学校があり、また「立命」とは「命を立する」、薬の効果を表し、薬屋の目的ともいえる言葉です。そこで「立命薬品」と名付けたのだと聞いています。



お店の外観

### —谷大との付き合いは昔からありましたか

昔、室町通を北大路から少し下がったところ、今の紫明幼稚園より三軒ほど南の場所に大谷大学の九州寮がありました。うちの父が福岡出身でしたので、九州出身の学生さんたちがよく訪ねて来られていました。いろいろな相談事をされたり、「おやじさん、今晚コンパをするから来て」とコンパの誘いにも来られていました。父も年を取ってからは「コンパ

にはよう行かんから差し入れしといて」と言うので、よく寮まで一升瓶を届けに行きましたよ。

寮の表には大きく「九州寮」と墨書された看板が掛かり、格子戸を開けると大きな下駄が散乱していて、いかにも九州のサムライが住んでいそうな、バンカラな雰囲気がありありとしていました。うちの父は福岡の東筑高校と長崎大学の薬学部出身なのですが、学生さんはどこで父のことを聞いてこられるのか、毎年新しい人が訪ねて来られました。きっと先輩から「あそこのおやじさんは九州出身だから、行けばきっと力になってくれる」という申し送りが代々されていたんでしょうね。



たくさんの薬が並ぶ店内

大学の敷地内にも寮があり、北大路側の洗心学寮の学生さんたちもよく来られました。寮の周りは草木が茫々と生い茂っていましたが、蚊取線香が必需品だったようです。寮の横に小さな入口があって、大学の人以上立ち入り禁止のはずなのに、なぜか近所の人たちが当たり前のように出入りしていて、大学の中を通って烏丸側へ通り抜けしていました。昔はとてもおおらかでしたね。

昔の大谷大学は仏教専門で少人数の静かな学校でした。旧制学校の教育は人格教育というか、知識の詰め込みではない、余裕のあるいい教育をしていましたね。大学生はエリートとして尊敬されていましたし、それだけの自覚も持っていました。人と人とのつながりも密接で、とてもいい時代だったと思います。

昔の赤レンガの校舎はとてもアカ

デミックで、それが四方どこからも見えて大変美しかったです。あの景観が見られなくなったことは実に惜しいですね。広々として真向かいに比叡山が見えるグラウンドでは、町内会の盆踊りなどが行われ、我々もよく利用させてもらいました。運動会には仮装行列の学生さんが近所を練り歩いて、とても面白く毎年楽しみにしていました。

近年になって大学は随分変わりましたが、それでもつい数年前までは、学園祭のやきそばなどの切符を売りに来られ、「行く時間がないわ」と言う、「配達します」と言われるので、ほんまに来てくれるのかなと思っていたら、ちゃんと持ってきてくださいました。そんな楽しいやりとりもありましたが、O157の食中毒が問題になって以降でしょうか、学園祭に食べ物を売りに来られることもなくなりました。社会情勢の変化で仕方のないこととはいえ、最近はどこも閉鎖的になってしまって少々寂しい気がします。

残念ながら、現在は地域と学校との関係も希薄になりがちですが、学生さんとのこうした交流がもっとあれば、お互いにとても面白いですよ。大谷大学の方となら、何かのきっかけさえあれば、昔みたいないい関係はすぐに戻ると思うんですよ。

### —ありがとうございました



整然と陳列された棚

# 研究室だより

## 総合研究室から

2008年11月から12月までの総合研究室の開室時間は以下のとおりです。

宗教行事、学園祭等により開室日や開室時間が変則的になっていますのでご注意ください。

- ◆学園祭期間中（11月7日～10日）について  
11月7日(金) 10時開室、15時閉室  
11月8日(土)・10日(月) 10時開室、17時30分閉室
- ◆入試について  
11月15日(土)・16日(日) 公募制推薦入試のため閉室

- ◆宗教行事について  
11月27日(水)  
大学報恩講のため、13時開室、19時30分閉室  
11月28日(金) 宗祖御正忌のため閉室

- ◆特別開室日について  
11月30日(日)・12月7日(日)  
修士論文提出締切日直前のため開室  
10時開室、17時30分閉室

11月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

12月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

- 黒字 9時開室、19時30分閉室
- 黄字 10時開室、17時30分閉室
- 黒字 響流館の休館日

2009年は1月7日(水)より開室します。  
開室日や開室時間の変更は、ホームページ・学  
内掲示板でお知らせしますのでご確認ください。

## 文化学科研究室から

### スピーチコンテスト

12月17日(水) 10時40分より12時10  
分まで、響流館メディアホールにて

## 幼児教育保育科研究室から

○幼児教育保育科第2学年の方は『卒業研究』を2部作成し、1部は教務課に、もう1部（コピー可）は幼児教育保育科研究室に提出してください。提出締切は12月1日(月)午後4時【厳守】です。なお、題目変更届及びワープロ書式外作成届は、11月24日(月・祝)午後5時までです。

○〈幼教フェスティバル2008〉を12月14日(日)に開催します。器楽合奏・

ダンス・劇など学生自身による手作りの発表会です。午前の部と午後の部の2部構成の予定です。詳細は後日幼児教育保育科専用掲示板等でご確認ください。

○第2学年が提出した『卒業研究』の発表会を1月14日(水)第5時限～第6時限（午後4時10分～7時20分）に開催します。授業の一環として開催することですので、第1・第2学

年とも全員出席してください。会場等、詳細は後日2号館1階の幼児教育保育科専用掲示板及び各ゼミ教員からお知らせします。

○現在、幼児教育保育科一般研究室の図書を借りている方は、期限を守って返却してください。なお後定期試験1週間前からは貸し出しができませんので、ご了承ください。

## 勉強会のお知らせ

総合研究室では、任期制助教による読書会・勉強会が開催されています。参加希望者は担当者まで。

1	大学院入学試験（春季）英語対策
2	修士課程および博士後期課程入学試験（春季）を受験する予定で、英語問題を選択しようと考えている人
3	参加者と相談の上決定
4	源 真帆（イギリス文学）
5	総合研究室の源まで
6	参加者の希望により、修士課程ならびに博士後期課程「外国語」（各専攻共通）「英語」の過去問を解く練習をします。（国際文化専攻の方は、必要に応じて「専門」の英語文献読解問題にも対応いたします。）

1	『集神州三宝感通録』輪読会
2	学部生・院生・専攻問わず、中国史・中国仏教史に興味のある方。（基本的に輪読史料は漢文文献です。）
3	日時：隔週の金曜日 18：00～ 場所：響流館3F総合研究室
4	藤井 政彦（東洋史学）
5	総合研究室西側の助教のデスクにおりますので、気軽に声をかけてください。
6	『集神州三宝感通録』は、中国の後漢より唐初に至るまでの約六百年間における仏教霊験譚を、撰者道宣が集めたものです。これを参加者で分担して調読していきます。漢文文献の読解力向上を主な目的としていますが、史料の性格上、不思議なお話ばかりなので、みんなで楽しみながら読み進めています。興味のある方はご参加ください。

1	浄土論註輪読会
2	特になし 現在、大学院生と行っています
3	火曜日 4時限目
4	富岡 量秀（真宗学）
5	総合研究室西側・助教席にいます
6	特に勉強会という形式ではなく、院生から『浄土論註』を一緒に読みたいという声が上がったので行っています。『浄土論註』の講義ではなく、一緒に読んで問題を共有してゆくことを目的としています。



1	チベット語会話
2	学部生・大学院生（学年問わず）
3	毎週土曜日 10:00～11:30
4	井内 真帆（チベット学）
5	総合研究室の井内まで
6	テキストを用いて初級のチベット語会話を学んでいます。

1	哲学英語文献 読書会
2	哲学科の学生、とくに大学院受験を考えている学生
3	参加者と相談して決めます。
4	西尾 浩二（哲学）
5	総合研究室の西尾まで
6	主に大学院受験に向けて、英語の文章を正確に読む訓練をおこないます。

- 1 会の名称
- 2 参加対象
- 3 日程・時間
- 4 担当者名（専門分野）
- 5 連絡先
- 6 趣旨・概要

※一部の読書会、研究会は演習室で開催しています。

## 学会だより

### 真宗学会

#### 修士論文中間発表会

日時 11月上旬  
場所 未定  
発表者 未定

#### 卒業論文中間発表会

日時 12月上旬  
場所 未定  
発表者 未定

#### 真宗学会例会

日時 11月12日(水) 14:30～16:00  
場所 尋源講堂  
講師 谷 真理 教授  
講題 未定

日時 12月3日(水) 14:30～16:00  
場所 尋源講堂  
発表者 佐々木秀英  
(博士後期課程第1学年)  
山高 秀介  
(博士後期課程第1学年)

日時 12月17日(水) 14:30～16:00  
場所 尋源講堂  
発表者 塚崎 拓也  
(博士後期課程第3学年)  
楠 寛大  
(博士後期課程第1学年)

詳細が決まり次第お知らせします。

### 仏教学会

#### 研究発表例会

日時 11月20日(木) 16:40～  
場所 響流館3階マルチメディア演習室  
発表者 戸次 顕彰  
(博士後期課程第3学年)  
松下 俊英  
(博士後期課程第3学年)  
人見 牧生 任期制助教

#### 公開講演会

日時 12月5日(金) 16:10～  
場所 響流館3階メディアホール  
講師 三友 健容氏  
(立正大学教授)  
講題 未定

#### 卒業論文梗概発表会

日時 1月16日(金) 16:10～  
場所 尋源講堂

### 哲学会

#### 秋季研究会

詳細が決まり次第お知らせします。

### 中国文学会

#### 中国文学会学術公開講演会

日時 12月19日(金) 16:10～  
場所 尋源講堂  
講師 武田 時昌氏  
(京都大学人文科学研究所教授)  
講題 未定  
詳細が決まり次第お知らせします。

### 英文学会

#### 英文学会年次大会

12月上旬に開催予定  
詳細が決まり次第お知らせします。

## 出版物紹介

- ◎『ケアのコミュニティ  
—北タイのエイズ自助  
グループが切り開くもの』  
田辺繁治 著  
岩波書店 刊  
(2008.6) 215頁



- ◎『臘扇記 注釈』  
清沢満之 著  
大谷大学真宗総合研究所 編集・校注  
加来雄之・西本祐攝 編集・注釈  
法藏館 刊  
(2008.6) 260頁



- ◎『この世を生きる念仏の教え』  
一楽 真 著  
真宗大谷派宗務所出版部 編集・刊行  
(2008.9.10) 71頁

- ◎『Encyclopedia of the African  
Diaspora: Origins, Experiences,  
and Culture』  
Carole Boyce Davies 編  
古川哲史 分担執筆  
ABC-CLIO (Santa Barbara & Oxford) 刊  
(2008.7) 1010頁

### 「大谷大学広報08-冬」発行のお知らせ

「大谷大学広報08-冬」の発行を来年1月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

- ①博綜館ピロティエ（博綜館入口横） ②至誠館（学生支援課カウンター前） ③響流館（図書館、教育研究支援課カウンター）  
④学内食堂 ⑤各研究室 ⑥1号館1階 ⑦2号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

[http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d\\_kouhou.html](http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html)

## 大谷中学・高等学校からのお知らせ

★ 大谷中学校・高等学校の来年度入試の概要をお知らせします。

### ■中学校入試について（募集人員105名）

日程	試験日	試験区分	試験内容
前期	1月17日(土)	S入試	作文・面接（グループと個人面接の2つ）・書類（小学校5・6年の成績）による総合審査
	1月17日(土)	A入試	国語・算数（各50分、各150点）・理科・社会（各35分、各100点）
	1月18日(日)	B入試	国語・算数（各50分、各150点）・理科・社会（各35分、各100点）
後期	1月21日(水)	C入試	国語・算数の2科目（各50分、各150点）

出願期間 — S・A・B入試 — 1月5日(月)～1月9日(金)  
 いずれも、午前9時30分より午後4時まで  
 C入試 — 1月5日(月)～1月9日(金)、午前9時30分～午後4時まで  
 1月19日(月) 午前9時30分～午後4時まで  
 1月20日(火) 午前9時30分～午後4時まで

出願方法その他 — S・A・B入試は本校事務室まで窓口出願か、郵送出願（期間内必着です）  
 C入試は、本校事務室までの窓口出願のみです

合格発表日 — S・A・B入試は、1月20日(火) 午前9時30分より本校で掲示  
 （本校ホームページでも掲載します）  
 C入試は、1月22日(木) 午前9時30分より本校で掲示  
 （本校ホームページでも掲載します）

受験料 — 2万円  
 A・B、S・B同時出願は2万円です

入学者面接日 — 2月7日(土)・2月8日(日)

### ■高等学校入試について（募集人員280名）

日程	試験日	試験内容	受験対象者
前期入試	2月10日(火)	国・社会・数学・理科・英語の5科目	専願者及び併願者
後期入試	2月12日(木)	国語・数学・英語の3科目	併願者のみ

※併願者は10日か12日のどちらかで受験することになります

出願期間 — 1月26日(月)～1月30日(金)（午前9時30分～午後4時まで）

出願方法その他 — 本校事務室まで窓口出願か、郵送出願（但し期間内必着です）

合格発表日 — 2月15日(日) — 本人宛郵送します。また、本校ホームページにも掲載（9時30分より）

入学者登校日 — 3月23日(月)13:00（大阪府の生徒は、3月24日(火)の13:00に登校）

受験料 — 2万円

※入試に関する問い合わせは、大谷中学・高等学校渉外部までお寄せください  
 (075-541-1317)



### ★ オープンキャンパス・学校説明会・入試説明会のお知らせ

#### ■大谷中学校

11月15日(土) 学校説明会  
 午前9時30分より午後12時30分まで  
 （授業見学は可能です。また個人相談も行います）  
 12月20日(土) 入試説明会  
 午後1時30分より午後4時まで  
 （個人相談も行います）

#### ■大谷高等学校

11月29日(土) 学校説明会  
 午前9時30分より午後12時30分まで  
 （授業見学は可能です。また個人相談も行います）

## 九州大谷短期大学からのお知らせ

### ■ 学科・専攻および入学定員

#### 1. 募集学科・定員 [全学科 男女共学]

- 仏教学科 ————— 10名
- 表現学科 ————— 50名  
 演劇放送フィールド  
 情報司書フィールド
- 幼児教育学科 ————— 100名  
 幼児教育コース  
 児童福祉・心理コース
- 専攻科福祉専攻 ————— 30名
- 福祉学科 ————— 50名

#### 2. 入試日程

入試区分	出願期間	試験日
公募推薦入試（第1次） 自己推薦入試（第1次） 社会人入試（第2次） 長期履修生（第Ⅱ期） 社会人特別入学（第Ⅱ期）	11/1(土)～ 11/10(月)必着	11/14(金)本学 11/13(木) 北九州・佐世保・八代 ・大分・鹿児島・沖縄
公募推薦入試（第2次） 自己推薦入試（第2次） 社会人入試（第3次） 長期履修生（第Ⅲ期） 社会人特別入学（第Ⅲ期）	12/8(月)～ 12/16(火)必着	12/24(水)本学

#### 3. 入試科目

○作文・面接（社会人は面接のみ）

※公募・自己推薦の2次募集から、幼児教育学科のみ、「作文面接」または「子どもとの遊び体験」のどちらかの試験方法を選んでください。

#### 九州大谷短期大学広報室

<http://www.kyushuotani.ac.jp/>  
 福岡県筑後市蔵数495-1  
 Tel.0942-53-9900 Fax.0942-53-9901  
 E-mail kouhou@kyushuotani.ac.jp

日本では、空前のペットブームが起こっているとよくいわれる。実はペットブームであるということはもう20数年間言われ続けているので、一過性の『ブーム』とはいえないだろうとつっこめるのだが、それはおいておいても、飼われているペットの数と種類は増え続け、ペット業界は拡大し続けている。

このように過熱している現象には必ず問題が伴う。そのひとつは外来生物の移入の問題である。珍しいペットとして海外から持ち込まれてペットショップで売られる生き物が、逃げ出したり捨てられたりして繁殖し、生態系に被害を及ぼしている。

最近ペットとして大量に輸入されるようになった大型カブトムシやクワガ

タムシなどが、野外で発見されている。ミドリガメは、子ガメでは小さくて手軽に飼いやすいと人気だが、成長すると30cm近くなり、また20年近く生きる。持て余して川に捨てたり、業者が売れ残ったカメを放すため、繁殖して日本にもとからいるカメの10倍はいるといわれている。「かっこいい」として数年前に大量に販売されたカミツキガメも野外での繁殖が確認された。かわいいう外見をしているが凶暴なアライグマ、シマリスも増加中。ペットとは違うが、釣り人がルアーフィッシングをするためとして日本中の湖や池に放したブラックバスは、在来の魚類を絶滅に追いやっている。水草として幅広く売られているホテイアオイは、琵琶湖

や淀川を覆っている。

「もともと野生の生き物だから放しても何の問題もないのでは？」と思われがちだが、もともとその地にいない生き物を放すことは、在来種の絶滅や雑種化、農作物の被害、人への伝染病などを引き起こすのである。

では、野生の生き物ではなく、ペットなら購入してもいいのだろうか？ ペットショップではかわいい血統書付の子イヌや子ネコがいつも販売されている。ネットでは、「業界最安値！」や「1円から」というコピーで売られている。その裏で、毎年40万頭近くが保健所で処分されている。安楽死ではなく、もがき苦しみながら窒息死させられているのである。処分されるイヌネコの

# 話題の広場 SQUARE

## カワイイとカワイソウを越えて



森崎 礼子

8割が飼われていたペットである。流行の犬種の子犬を劣悪な環境で大量に生産し、産めなくなった母イヌを山に捨てる業者がいる。安易に子犬を飼うことは、こうした悪徳業者をもうけさせることになるのである。

「カワイイ」「珍しい」「流行っている」と言って買い、飽きたり、手に負えなくなったら、自分で飼うという責任を放棄し、「殺すのはカワイソウ」といって放す。こうした行動は、その人はまったく当たり前、または生き物への優しさと思ってやっている行動かもしれない。しかし、突然捨てられた生き物はそこでなんとか一生懸命生きようとする。そのためにそこに元からいた生き物が絶滅に追いやられる。農作物の被害や駆除のための莫大な費用と労力。また、購入するという行為によって、ペット業者がその生き物をさら

に売ることになる。その陰で、大きくなりすぎて売れない、管理の費用がかかるなどの理由で大量に捨てられる。この構造には、購入者の一時の満足とペット業者のもうけ以外、被害と荒廃しかない。どうしたらこれを止めることができると思いますか？

行政の法規制は後手後手にまわり、またペット業界を潤すという経済活動に対しては制限しないので、役には立たない。私たちにできるのは、何が起きているか事実を知って、自分の行動を変えることだけである。私たちの中にある「カワイイ」と思う気持ちにつけ込んでペットを安易に買わせる業界。その裏で、そのカワイイ生き物が悲惨な目に合っていること。また、殺すのは「カワイソウ」だからと、野に放すことは優しさや慈悲ではなく、その生き物にとっても、放された場所にいる

生き物にとっても、また私たちにとっても被害でしかないことを知っておいてほしい。

私たちの自然な「カワイイ」「カワイソウ」という気持ちが、全く逆のことを引き起こしている。おかしいことになってしまったものだ。だから、このあべこべな状況をなんとかするには、逆のことをしなくてはならない。一見「カワイソウ」な行為（外来生物の駆除）、また「カワイイ」と思っても、買ったり、もてはやしたりしないこと。このように一見「不自然な」動物愛護活動や動物と人間の共生をめざす活動が、各地で地味に行われている。興味があったらぜひ参加しよう。

（もりさき あやこ）  
講師 心理学・情報処理